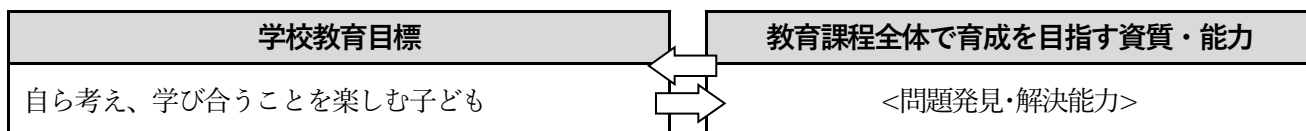


横浜市立山下みどり台小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力



(2) 中期取組目標

中期取組目標
<p>「笑顔あふれる学校」をめざす。 笑顔は、授業で、教室で、仲間と、保護者も、地域も、充実の笑顔になるよう意欲的に工夫改善していく学校。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主体的に考え、表現する子ども 2 何事にも本気で取り組む子ども 3 人とかかわりながら、互いに高め合う子ども <p>職員全体で話し合っって共有化した上記のめざす子ども像実現に向けて、学年・学級、各セクトごとに具体的な手だてを検討し、実施していく。</p>

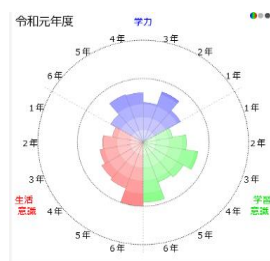
(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野		具体的取組
確かな学力		①授業力向上のための取り組み 重点研研究主題「資質・能力を育む学び」～子どもはどのように考えるのか～を設定し、国語科・算数科を中心に授業研究を行う。 ②言語活動の充実 全学習活動を通して考えを伝え合ったり、考えの共通点や相違点に着目してよさを共有し合ったりする時間を多く設定する。
担当	重点研推進委員会・T部会	

2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

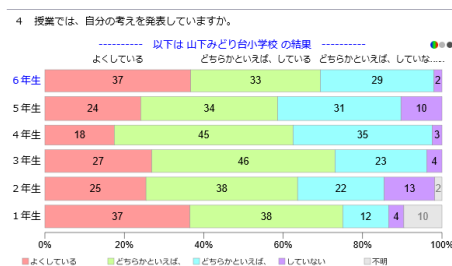
横浜市の平均よりも全体的に低めである。各教科の基礎・基本と思考力の通過率を市と比べてみると、思考力が高いにも関わらず基礎・基本が低い結果が出ている。基礎・基本の確実な定着が本校児童の課題である。基礎・基本とは、いわゆる『読み書き計算』だけではなく、学び方や学習を創る学習への取り組み方等も含めたものである。定期的な復習の機会を設けたり、単元間、教科間のつながりに気づかせていったりするなど、学んだことを振り返り、学習内容の定着に向けて繰り返し活用することが重要である。



教科ごとに見ると、市の平均と比べて、どの学年も国語の「言語事項」の定着に弱さがある。特に、「語彙」に関わる能力の育成が必要である。単に漢字練習をするのではなく、身に付けた言葉をスピーチや学習の振り返りの中で積極的に用いたり、文章内での言葉の役割を確認していったりするなど、生きた言語活用力に転用していくことがこれからの大きな課題である。

(2) 学習意識・生活意識と学力層とのクロス集計による分析

前年度に比べ、学習意識・生活意識に減退が見られる。発言が学習意識の全てではないが、自分の考えを発表することについて、市の傾向と本校を比較すると、市では高学年になるにしたがって授業中の発言をすることの割合が減っていつているが、本校は増えている。低学年からの積み重ねが高学年での学習に生きている。この本校の強みを生かし、知識の習得の授業に終わらせず、発表などの関わり合いの中で用いて深く学び、教科を学習することの魅力やおもしろさを子どもたちに味わわせ、意欲の向上につなげたい。今年度に入り、学習活動のあらゆる場面で「何のために学ぶのか」ということを子どもたちと意思を共有して取り組むように心がけている。このような学習を続け、学ぶことの楽しさや価値を子どもたちに感得させ、学習意識や生活意識の向上につなげたい。



3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	<ul style="list-style-type: none"> ○何事にも本気で取り組みむ力 ○主体的に考え、表現する力 ○人とかがわり合い、互いに高め合う力 	<ul style="list-style-type: none"> ・好奇心や意欲がより高まるように、もの、ひと、こととの出会わせ方を工夫して授業を組み立てる。 ・自分の思いや考えを表そうとする意欲がより高まるように、語彙力や文の構造を身につけさせる。いろいろな教科や学校生活全般の中で、表現する場を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前期の経験を踏まえ、子どもの意見や興味をもったものを中心に授業を組み立てる。選択肢を設けたり、児童が調べてきたものを取り入れたりすることで、自ら判断して学習を進められるようにする。 ・教師の支援を取り入れつつ、自分たちで学習の計画や調べ方、めあてを決める機会を意図的に設け、主体的に学習を創る経験をさせる。経験や気づきを肯定的に捉え価値付けすることで、次への動機付けにする。
2年		<ul style="list-style-type: none"> ・本気で取り組み、主体的に考えるために、学習意欲や必要感を引き出す課題提示をする。 ・基礎学力の定着をはかる。算数は、授業時間内に練習問題まで取り組む。間違った問題のやり直しを徹底する。国語は、音読・漢字の学習を毎日継続して行う。 ・自分の考えをもつ時間を取り、確認したり表現したりできる場や手段を意図的に設ける。 ・ノートや制作物の交換・交流を通して、友達のよさやがんばりを発見し、伝え合ったり、認め合ったりする場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方を身に付けるために、朝学習の時間に多層指導モデルMIMを取り入れる。 ・分散学習を取り入れる。算数は1単元または2単元ごとに前単元の復習に取り組む時間を設定する。 ・相手の話に関心をもって聞き、自分の考えや思ったことを伝え合う場を意図的に設ける。 ・学習の振り返りを書くなど、自分の考えや感じたことを言葉にする力を養う。
3年		<ul style="list-style-type: none"> ・話したり書いたりすることで、自分の考えを主体的に表現する場を増やす。そのために、考える時間を確保したり、自分の意見を書いたりし、自信をもって表現できるようにする。 ・相手の思いを受け止めて聞き、感じたことを言葉にする力をつける。 ・学習内容の確実な定着を図るため、学習を振り返り、継続的に練習問題に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読や読書を通して、気持ちや考えを的確に表現できる語句の量を増やし、客観的に自分を振り返る力をつける。 ・友だちや自分の意見や考えの共通点や相違点を考え、聞くことができる。 ・単元の学習が終わった後も、学習内容の確実な定着を図るために、学習を振り返ったり定着問題を繰り返し行ったりする。

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
4年	○何事にも 本気で取 り組む力	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を発見・理解できるようになるために、事実を大まかに把握する場面を多く設定する。 ・言葉による伝え合いができる豊かな語彙を身に付けるために、学校図書館の利用など多くの文章に触れる場面を設定する。 ・他者を理解する態度・自己を理解する姿勢の育成のため、人の考えを聞いた り自分の考えを深めたりする話し合 いの場面を多く設定する。 ・単元の学習が終わった後も、学習内容の確実な定着を図るために、学習を振り返ったり定着問題を繰り返し行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を発見・理解できるようになるために、事実を大まかに把握する場面を多く設定する。 ・言葉による伝え合いができる豊かな語彙を身に付けるために、学校図書館の利用など多くの文章に触れる場面を設定する。 ・他者を理解する態度・自己を理解する姿勢の育成のため、人の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点に目を向け、自己の考えを深める話し合 いの場面を多く設定する。 ・単元の学習が終わった後も、学習内容の確実な定着を図るために、学習を振り返ったり定着問題を繰り返し行ったりする。
5年	○主体的に 考え、表現 する力 ○人とかか わり合い、 互いに高 め合う力	<ul style="list-style-type: none"> ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やせるよう、話や文章の中で使う機会を設け、語彙を豊かにする。 ・語と語や文と文との続き方を意識して文章を考えたり、確かめたりしながら、内容のまとまりが分かるように表現する機会を設ける。 ・単元の学習が終わった後も、学習内容の確実な定着を図るために、学習を振り返ったり定着問題を繰り返し行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考に関わる語句の量を増やせるよう、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにする ・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考える機会を設ける。 ・単元の学習が終わった後も、学習内容の確実な定着を図るために、学習を振り返ったり定着問題を繰り返し行ったりする。
6年		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもてるようになるために、意見を話す前に考えを書き、それを表出できる場面を多く設定する。 ・それまでの学習と新しい学習を比較して、自分の考えや疑問をもたせる場面を多く設定する。 ・主体的に学ぶ態度の育成のため、一つ分かったことがあれば他にできることはないかを問い、自分の疑問や願いにし たがって自己決定して学習に取り組む場面を作る。 ・単元の学習が終わった後も、学習内容の確実な定着を図るために、学習を振り返ったり定着問題を繰り返し行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもてるようになるために、意見を話す前に考えを書き、それを表出できる場面を多く設定する。 ・自分と他者を比較して考える活動を通して、自分の考えや疑問をもたせる場面を多く設定する。 ・主体的に学ぶ態度の育成のため、一つ分かったことがあれば他にできることはないかを問い、自分の疑問や願いにし たがって自己決定して学習に取り組む場面を作る。 ・単元の学習が終わった後も、学習内容の確実な定着を図るために、学習を振り返ったり定着問題を繰り返し行ったりする。

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
個別支援学級	<ul style="list-style-type: none"> ○何事にも本気で取り組む力 ○主体的に考え、表現する力 ○人とかかわり合い、互いに高め合う力 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共有した「個別の学習指導・支援計画」をもとに活動を進めていく。 ・経験したことを想起して言語化したり、自分の行動をふり返ったりして次時の活動につなげられるようにする。 ・出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、語句や文の表現に慣れ親しむようにする。 ・身近な人と話をする時間を大切に、日常生活でよく使われる語句を適切に使って話したり書いたりできるようにする。 ・自分自身や身の周りの人・物の特徴や変化に気付き、意欲や自信をもって学んだり生活したりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と共有した「個別の学習指導・支援計画」をもとに活動を進めていく。 ・課題を設定し、解決策を考え実践し、学習したことをふり返り考えたことを表現できるようにする。 ・自分の課題に気づいたり、課題を選択して解決策を見出そうと考えたりする場を設定する。 ・写真を用いたり時系列で話を聞いたりすることで、見聞きしたり経験したりしたことを正確に伝えられるようにする。 ・自分の得意なことや不得意なことに気付き、自分の言動を調整したり周りの人に助けを求めたりできるようにする。